

令和5年度学校自己評価システムシート (県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	一人一人の児童生徒の豊かな成長を支援し、保護者と地域の信頼に応える学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 12年間を見通した教育課程の編成と、児童生徒一人一人を大切に教育活動を行う。 2 肢体不自由特別支援学校として、保護者と地域に信頼される学校づくりを行う。 3 安心安全な教育環境づくりと、その基盤としての教育力を高める教員集団づくりを行う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(月 日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>教科の実践において学習指導要領を根拠とした指導ができつつある。児童生徒がどのように学び、何ができるようになるかをより重視した教育活動の展開のため、3観点に沿った目標設定と評価を行う。また、教科の「見方・考え方」の理解を深め、実践に活かすことを目指していきたい。</p> <p>本校での自立の概念と教育課程がどう繋がっているのかを意識化し、社会の中で学ぶ仕掛けづくりに取り組む必要がある。児童生徒が「自分がやれる」ということを実感させられる授業づくりのため、「主体的に学ぶ」ことの方角性や課題設定、教員の捉えを深めていけるとよい。</p>	<p>(1) 学習指導要領に基づいた教育計画と授業実践。</p> <p>(2) 児童生徒が主体的に学べる授業づくり。</p>	<p>・教育支援プランにおいて3観点での目標設定を行い、基づいた授業を実践し評価する。</p> <p>・各教科の目標や内容を効果的に実施するために作成スケジュールを含めて、年間指導計画を見直す。</p> <p>・各教科の「資質・能力」「見方・考え方」を踏まえ児童生徒一人一人に「できた・わかった」を実感させられる授業を行う。</p> <p>・児童生徒の自立を促すために、外部専門家等やICT、教材教具を活用した仕掛けづくりをする。</p>	<p>・3観点での目標設定と授業実践、評価ができたか。</p> <p>・効果的な授業実践につながる年間指導計画を作成することができたか。</p> <p>・教員が「主体的な学び」を適切に捉えた授業を提供することができたか。</p> <p>・児童生徒が自ら学ぶ仕掛けづくりができたか。</p>			
2	<p>学校公開、教育相談を行い、子供の学びの場を考える支援を行った。支援籍や交流会では相手校の状況に合わせ、実際の訪問とリモート実施を併せながら行った。交流および共同学習の活性化、就労先との連携や卒業生が関わられる学校であることが地域における連携の強化になるのではと考える。</p> <p>Web フォームでの学校評価保護者アンケートを実施し、概ね高評価であったが回収率が60%ほどであった。複数年での分析をすることや回収率を高めることなど検討する必要がある。</p> <p>コミュニティスクールへの移行を視野に、現状の学校評議員会を踏まえた学校運営協議会への展開を検討し、地域や保護者からの意見を学校運営に活かすシステムを構築することが課題である。</p>	<p>(1) センター的機能による地域支援と、卒業後を見据えた関係機関との連携。</p> <p>(2) 保護者や地域からの視点を学校運営に反映する仕組みづくり。</p>	<p>・地域の子供に適切な学びの場のための学校公開や相談支援を行う。</p> <p>・現在の豊かな学びと将来の生活を見据えて、行政や就労支援機関、企業や事業所等と連携する。</p> <p>・学校評価アンケートは web と紙面でのハイブリッド実施、前年と比較できるような方法を検討して行う。</p> <p>・令和6年度の学校運営協議会への移行に向けたシステムを構築する。</p>	<p>・適切な学びの場が提供できたか。</p> <p>・関係機関と連携した支援ができたか。</p> <p>・保護者アンケートの回収率が80%を超え、複数年での分析ができたか。</p> <p>・学校運営協議会のシステムが構築できたか。</p>			
3	<p>引渡し訓練について、マニュアルに沿った指示系統で2年間行った。災害はいつ何時起こる可能性があるため、登下校中などこれまで行ってない想定での訓練が必要である。また災害に限らず、非常時の対応はバス会社や児童デイサービスとの日々の連携が重要である。</p> <p>web 目安箱をもとに、教職員の意見を吸い上げ、業務の効率化につながる改善を行ってきた。</p> <p>育児や介護等が両立できる働き方が必要であり、児童生徒の教育効果という本質を尊重しつつ、既成概念に囚われない働き方・組織のあり方を考え実行していくことが急務である。</p>	<p>(1) 児童生徒が安心安全に学ぶための体制の整備。</p> <p>(2) 教職員がやりがいを感じられる組織づくり。</p>	<p>・教職員一人一人が緊急時に適切な行動が取れるようになるための、様々な訓練を実施する。</p> <p>・児童生徒が安心して利用できるよう、バス会社やデイサービス事業所と連携する。</p> <p>・教職員一人一人の強みを生かし、グループ編成に捉われない指導体制を作る。</p> <p>・校内の人材を活用し、効率的に業務に取り組む。</p>	<p>・様々な緊急時を想定した訓練を実施し、教職員が適切な行動が取れたか。</p> <p>・日頃からコミュニケーションを積極的に取ったり、懇談会や連絡協議会を実施したりできたか。</p> <p>・教職員の強みを生かした指導体制で指導ができたか。</p> <p>・管理職や担任外を活用し、効率的に業務に取り組めたか。</p>			

学校関係者評価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	